

# 主 催 者 挨 拶

# 齋藤十郎 地球環境行動会議（GEA）会長

2017年10月26日 開会式

皇太子同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、また安倍内閣総理大臣にもご出席を賜り、GEA国際会議を開催できますことは、誠に光栄であります。また、会議開催にご尽力いただいた関係各位のご努力に、主催者を代表して深く感謝を申し上げます。

今年も、我が国のみならず、世界の各地で異常気象による甚大な災害が頻発しております。米国においても観測史上最大級のハリケーンが襲来し、未曾有の被害をもたらしました。あらためて、災害地域の皆様に心からお見舞いを申し上げますとともに、一刻も早い復興をお祈りする次第であります。

米国にトランプ政権が誕生し、残念ながら地球温暖化による気候変動問題が起きていることに対する考え方の相違があり、COP21におけるパリ協定からの脱退を表明されております。人類の英知が結集されたIPCCの数時にわたる評価報告書によっても、人類の旺盛な産業活動によるCO2等の温室効果ガス排出が気候変動を引き起こしていることに議論の余地はないと私は思います。

幸い、米国を除く主要先進国は、引き続きパリ協定の順守を確認し、その実現に国際協調していくことを約束しております。ドイツは2030年までに、またイギリス、フランスは2040年を目途に、化石燃料車の廃止を決定しております。中国も同様の措置を検討中であります。どうか米国もこのような世界の動向に向き合っていただきたいと切望いたしております。

GEA国際会議は、世界各国から第一線で活躍している有識者をお招きし、我が国における各分野の権威者と討論していただき、文字どおり英知を結集する国際会議であります。2日間の会議を通して活発に議論をしていただき、その成果がパリ協定をしっかりと前進させる国際世論の喚起に、少しでも貢献できれば幸いと思います。

今回の会議に内外からご参加くださった皆様に、あらためて感謝申し上げ、主催者を代表した挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

# 河野太郎 外務大臣

2017年10月26日 昼食会

ご紹介をいただきました、外務大臣の河野太郎でございます。

ご列席の皆様、地球環境行動会議 (GEA) は、地球環境問題の解決と持続可能な開発に、多大な貢献をされてきており、この国際会議はその活動の中でも最も重要で歴史のあるものでございます。本日この場でご挨拶をさせていただく機会を頂き、大変光栄に思います。

まず、本日午前中に、皇太子同妃両殿下の御臨席及び安倍総理の出席の下で、「GEA国際会議2017」の開会が盛大に行われましたことをお祝い申し上げます。今回の会議の、「脱炭素社会実現に向けた新たな戦略の構築」というテーマは、現在国際社会が直面する最も重要な課題の一つであり、時宜を得たものだと思います。

脱炭素社会の実現に向けた取組は、気候変動問題への対策として重要でございます。地球温暖化は既に昨今の台風ですとか、ハリケーン、洪水、その他、私たちがもう現実に直面をしているものであり、世界各国が協調して対応しなければならないものでございます。日本政府としても、パリ協定の着実な実施のために積極的に貢献してまいりたいと思います。

また、脱炭素社会の実現に際しては、持続可能な社会を構築していくことが不可欠であり、「持続可能な開発目標」、いわゆるSDGsを達成していくことが重要でございます。日本政府としても総理を本部長とする「SDGs推進本部」を設置し、私も副本部長を務めておりますが、国内外でSDGsの達成に向けた取組を、しっかりリードしてまいりたいと思います。

気候変動や持続可能な開発という地球規模の課題に対しましては、政府だけでなく、全ての関係者が、グローバルなパートナーシップを築いて取り組む必要がございます。日本政府としては、こうした課題への対応において、皆様の御知恵をお借りしつつ、国際社会でリーダーシップを発揮し、外交上の努力をしっかりと進めてまいります。

今回の「GEA国際会議」の開催実現に向けて多大な準備をされてきた皆様に改めて感謝申し上げるとともに、会議の成功を祈念して、私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

# 中川雅治 環境大臣

2017年10月26日 昼食会

GEA国際会議2017に御参加の皆さま、本日はようこそお越し下さいました。環境大臣として心より歓迎いたします。

また、斎藤十朗会長をはじめGEA実行委員の方々の御尽力に心より敬意を表します。

前回GEAが開催された2015年は、地球環境に関心を寄せる私達にとって、歴史的な合意を目の当たりにした年でありました。SDGsとパリ協定です。それから2年が経ち、私たちは、具体的な取組を実行に移す段階にあります。

その取組を加速させるためには、いくつかのキーワードがあります。あらゆるステークホルダーの関与、長期的な戦略づくり、革新的な技術、そして金融です。

世界の英知である皆さまが集まり、将来への道筋を議論するGEAの意義は、たいへん大きなものと確信いたしております。

今回の会議が実り多いものとなることを祈念いたしまして、私の挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

# 中根一幸 外務副大臣

2017年10月26日 外務省主催 歓迎レセプション

ご列席の皆様、「GEA (ギア) 国際会議2017」の開催に際しまして、皆様を本レセプションにお迎えできましたことを、大変嬉しく存じます。

今回の会議のテーマは、「脱炭素社会実現に向けた新たな戦略の構築」であります。本日の議論においては、脱炭素化に向けた国家及び企業の戦略等に関し、大変有意義なプレゼンテーション、そして非常に活発な自由討論が行われたと伺っております。そして明日は、新たな技術やイノベーション、金融のグリーン化について議論がなされると承知しております。

脱炭素社会を実現していくためには、革新的技術の開発・普及を通じた温室効果ガスの削減に加え、気候変動対策のための投資を促していくことも重要です。今回の会議での議論が、脱炭素社会の実現に向けた国際的な取組、ひいてはパリ協定の着実な実施を後押しすることを期待しております。日本政府としても、これに積極的に貢献していきます。

今回の会議の場には、政界、経済界、学界、国際機関等から、高い見識をお持ちの方々にお集まりいただいております。地球環境問題の解決に向けては、持続可能な開発目標 (SDGs) の達成が不可欠であり、そのためには、政府だけでなく、「官民パートナーシップ」に基づき、様々なアクターが連携して取り組むことが、何よりも重要と考えております。

国際社会における脱炭素化に向けた流れは、もはや後戻りすることはありません。日本政府としても、世界が今、直面するこの課題に、皆様の御知見をお借りしつつ、国際社会と共に答えを見いだすべく、努めていく所存です。皆様のご理解とご協力を改めてお願い申し上げて、私の挨拶とさせていただきます。

ご清聴、ありがとうございました。

# 秋元司 国土交通副大臣

2017年10月27日 昼食会

皆様、こんにちは。国土交通副大臣の秋元司でございます。はじめに、本年のGEA国際会議2017のため、国内外からお集まりの皆様を心から歓迎をいたします。また、準備に当たられました地球環境行動会議の皆様をはじめ、関係各位の皆様には心より感謝を申し上げます。

国土交通省は、人々の生き生きとした暮らし、これを支える活力ある経済社会、日々の安全の確保、良好な環境の保全・創出、多様性のある地域を実現するため、ハード・ソフトの基盤を形成することを使命としております。環境分野では「低炭素社会」、「自然共生社会」、「資源循環型社会」の実現に向け、様々な施策を講じております。

運輸分野や住宅・建築物分野など、国土交通省が関連する分野からのCO2排出量は、我が国全体の5割を占めております。このため、電気自動車など、次世代環境対応車の普及、または省エネ基準に適合した建築物等の普及、都市のコンパクト化や公共交通網の再構築等を通じた低炭素型都市・地域づくり等に積極的に取り組んでいるところでございまして、これらの取り組みの成果を踏まえ、今後も将来の脱炭素社会の実現に向けた施策を進めてまいります。

また、最大限のCO2排出対策を講じたとしても、気候変動による影響は避けられないとの国際的認識を踏まえ、国土交通省では、影響が懸念される自然災害や渇水の頻発等に対して、ハード・ソフト両面からの総合的な適応策を、国土交通省の現場力を活用して取り組んでおります。

本年のGEA国際会議2017において、国内外の地球環境問題の専門家の皆様の活発的な議論を経て、その成果が地球の持続可能な未来に大いに貢献することを期待申し上げ、また、この会はわが国の中でも大先輩の皆様が本当におそろいの会議でございますので、そういった皆様のまた英知を結集していただきながら、より良い、また実りある会議となりますことをご祈念申し上げまして、一言ご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

# 谷合正明 農林水産副大臣

2017年10月27日 昼食会

ご紹介いただきました、農林水産副大臣をしております、谷合正明でございます。本日はGEAの国際会議2017が開催されております昨日来、熱心な討議が続いております、斎藤会長はじめ関係者の皆様、そして我々としても諸先輩方が今日たくさんいらっしゃいますが、関係の皆様のご尽力に、まずもって心から敬意を表したいと思います。

まず、昨年11月にパリ協定が発効されまして、温室効果ガスの削減というものが非常に大きな課題となっておりますし、SDGsの目標の中にもこの環境というものが一つの大きな柱となっております。

世界の温室効果ガス排出量のうち、農業由来が4分の1を占めているということでございます。従って、農林水産省としても、温室効果ガス削減に向けた国内の取り組みもそうですし、国際的な貢献について、しっかりと取り組みを進めてまいりたいと思います。

具体的には、例えば施設園芸ですね。ビニールハウス等を使った施設園芸では、重油等を使わずにヒートポンプを使っていく。あるいは森林の整備で申し上げれば、適切な間伐や植林を通じた形での森林吸収源対策。そして、この堆肥の有機物を使うことによって農地、土壌に対して炭素を貯留していくと。再生可能エネルギーを農村地域で普及していくことですか。さらに、食品、フードロスの削減、こうしたことも対策を進めているところであります。

バイオマスの利活用におきましては、温室効果ガスの削減のみならず、この地域の活性化、雇用に結びつけるということで地方創生にも貢献できるものでございまして、地域資源を活用した社会経済システムをしっかりとつくっていくということにおいて、農林水産分野の役割というものは重要性が高まっておりますので、しっかりと農林水産省といたしましても皆様のご指導をいただきながら、国際社会とともに取り組みの推進に努めてまいります。

最後になりますが、本日の、このたびのGEAの国際会議の成功と、ご出席の皆様のご健勝、ご活躍を心からご祈念申し上げまして、私のご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

# 平木大作 経済産業大臣政務官

2017年10月27日 昼食会

ご紹介をいただきました経済産業大臣政務官を拝しております、平木大作でございます。本日は、GEA国際会議にご参加いただきまして誠にありがとうございます。

まずはじめに、地球環境問題の解決と持続可能な社会の実現に向けたGEAの長年の貢献に、心から敬意を表します。経済産業省を代表して一言ご挨拶申し上げますが、既に午前中の熱心な議論を経て、皆様、おなかのすいた頃かと思いますので、なるべく早く終わらせたいと思います。

気候変動は人類の生存基盤に関わる最も重要な問題の1つであり、長期的な取り組みが必要であります。我々は持続可能な社会の実現に向けて、温暖化対策と経済成長を両立させながら行動し続けてまいりました。

「パリ協定」では、世界共通の長期目標が定められ、各国において「長期低排出発展戦略」を策定・提出することなどが合意されました。昨年パリ協定が発効したことを踏まえ、世界各国の政府や国際機関、民間などの様々な主体が具体的な行動を始めているところであります。

我が国では1970年代に中東情勢の影響を受け、石油価格が高騰するいわゆる「石油危機」が起きました。この経験から、資源が乏しい我が国においては、省エネ法制定などの法整備を通じて、各産業における省エネ技術の開発と普及を国主導で進めてまいりました。結果として我が国の省エネ技術は今、世界の中でも極めて優れたものとすることができました。

パリ協定での長期目標を達成するためには、産業界の取り組みが必要不可欠であり、今後もイノベーションを促し、広めていくことが重要であります。

また、国内にとどまらず、世界全体での温室効果ガスの排出削減に目を向けなければなりません。日本は省エネ技術や、蓄電池・地熱発電技術をはじめとした、優れたエネルギー技術を培ってまいりました。気候変動問題の解決に向けたイノベーションは、産業競争力の強化にもつながります。このような日本の技術が、世界各国、とりわけこれから発展し、エネルギーを多く消費する国で活かされることにより、どのような国でも持続可能な発展ができるよう、積極的に貢献をしてまいりたいと考えております。

終わりに、本日の会合がパリ協定実施に向けた機運を盛り上げ、世界全体の持続可能な発展につながることを祈念し、私のご挨拶とさせていただきます。

ご清聴、ありがとうございました。

# 新妻秀規 文部科学大臣政務官

2017年10月27日 フェアウェルレセプション

文部科学大臣政務官の新妻秀規でございます。文部科学省を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

昨日、本日の2日間にわたり、今回もGEA国際会議を成功裏に開催することができましたこと、共催者である文部科学省として誠に喜ばしく思います。

今回の会議にご参加くださいました、地球環境問題に取り組まれている国内外の皆様、会議の開催にご尽力されました齋藤十朗会長、広中和歌子事務総局長をはじめとしたGEA実行委員会、事務局の皆様にご心より敬意を表します。

さて、今回のGEA国際会議2017においては、「脱炭素社会実現に向けた新たな戦略の構築」をテーマに、「持続可能な社会のために必要な変革と行動」に向けた議論が行われたと承知をしており、非常に時宜を得たものと考えております。

これは、パリ協定で定められた地球温暖化対策が本格化する2020年までに、行政、民間企業、市民、科学者が一丸となって地球温暖化の問題に真剣に取り組まなければ、パリ協定に定められたゴールの達成は非常に困難になってしまうと考えられるためです。当然、持続可能な開発目標、SDGsが実現できる可能性も小さくなってしまいます。

このような状況の中、科学技術の担う役割はますます重要になってきていると考えます。

文部科学省は、国内外の動きや、今回の国際会議でのご示唆を踏まえ、地球温暖化への対応や温室効果ガスの削減等の緩和に必要な、気候変動の予測研究、地球環境の観測技術の開発、革新的エネルギー技術に関する研究開発等に取り組む、引き続き持続可能な社会の構築に貢献してまいります。

また2020年にはここ東京でオリンピック・パラリンピックが開催されます。この機会を捉え、水素社会を目指した取り組みなど、わが国の高度で先進的な環境技術を世界に積極的に発信してまいりたいと考えております。本日ご出席いただいております皆様方にも、ぜひ再び東京にお越しいただき、ご覧いただきたく存じます。

最後になりましたが、人類が持続可能な未来を実現するため、本会議が今後もますます発展していくことを祈念して、私の挨拶といたします。

ありがとうございました。

# 小池百合子 東京都知事

2017年10月27日 フェアウェルレセプション

懐かしい場所に戻ってまいりました。小池でございます。現在、都知事をやっております。鈴木大臣、トゥビアナ前大使、そして新妻政務官、お揃いでございます。GEA国際会議が盛大に開催されましたことを心からお慶びを申し上げます。先程、安本さんが、私は今もメンバーだよと念押しをされまして、ああ、そうかと、改めてGEAのメンバーであることを認識した次第でございます。

ちょうど明日が東京オリンピック・パラリンピック開催まで1000日なんですね。1000日前ということございまして、明日は鈴木大臣と一緒に、その1000日前イベントというのを行うことになっております。

2020年の東京大会でございますけれども、「復興五輪」ということで始まったわけでございます。ぜひこの被災地に対しても、さまざまな元気を送っていきたいと考えております。

そして、今回の大会でございますけれども、皆さん使い古しの携帯電話、ぜひご寄付ください。あれは都市鉱山でございます、その中に金銀銅、全部入っています。それを集めて5,000個のメダルを作るということでございます。それから、水素エネルギー、新妻政務官もおっしゃいました水素エネルギーも選手村でショーケース的に使っていくということでございます。

ちょうどパリから戻ってきたばかりでございますが、イダルゴ市長とも話をし、また、大都市間のネットワークで「C40」というのがございます。最初、40都市で始めたのが、今はもう80ぐらいに膨れ上がっているんですが、例を取れば、今言っちゃいましたね、アメリカ等、国としては動かなくても、それぞれの町は動いているということございまして、そこで連携を取っていくということでございます。

ちょうどパリで、イダルゴパリ市長、それから、2028年の開催地になりますロサンゼルス市の市長等とも会いながら、東京大会がサステイナブルのモデルケースになるように努めようと、改めて思った次第でございます。

今回パリで発表してきたんですけれども、東京大会の開会式と閉会式、オリンピックとパラリンピックがありますので、合計4日になりますが、その間、都内で排出される全てのCO2をオフセットすることに致しまして、発表致しました。これは、省エネ機運をさらに醸成することと、それから都市型のキャップ・アンド・トレードを東京都は、ご承知のように随分前から取り入れているということから、これを活用するということございまして、ぜひこの都市型のキャップ・アンド・トレード制度のクレジットで、しっかりと4日間はゼロカーボンデイを実現しようということでございます。

同じように、このキャップ・アンド・トレードを活用いたしまして、組織委員会もこのサステイナブルオリンピックということにコミットしていますので、準備とそれから運用期間、大会期間中のこの温室効果ガスのオフセット、CO2排出のオフセットにも、このクレジットを活用して組織委員会に協力をしていこうということでございます。

パリ協定で世界が脱炭素社会に向けて大きく動いているわけでございますけれども、東京都は2030年までに温室効果ガスの排出量を2000年比で30%削減するという目標を掲げているところでございます。そして、さらにその先といたしまして、環境先進都市としてCO2を排出しない「ゼロエミッション東京」という目標を目指して頑張っていきたいと思っております。

GEAの皆様の、さまざまなご助言を賜りたく、歓迎をさせていただきます。

ありがとうございました。

# 鈴木俊一 東京オリンピック・パラリンピック担当大臣

2017年10月27日 フェアウェルレセプション

東京オリンピック・パラリンピック担当大臣の鈴木俊一でございます。私は、2013年からGEAのメンバーをいたしておりまして、今回の会議の実行委員会のメンバーも努めております。

はじめに、GEA国際会議2017のために、国内外からたくさんの皆様がたにお集まりをいただきました。心から主催する立場の一人として歓迎を申し上げます。また、準備に当たられました地球環境行動会議の皆様をはじめ、関係の方々に心より感謝を申し上げます。

2020年東京大会は、スポーツだけではなくて、社会経済等、我々が想像する以上に多岐にわたる影響を及ぼす一大事業であります。

オリンピックでは、大会の全てに持続可能性を導入するとされています。従いまして、持続可能な開発目標(SDGs)を踏まえつつ、大会に関わる様々な検討に持続可能性という観点を取り入れることになっております。

例えば、先ほど小池東京都知事もお触れになられましたけれども、大会で必要となるメダルを携帯電話等に含まれている金属、いわゆる都市鉱山を集めて作ろうというプロジェクトも進んでおります。リサイクルメダルを作るということは、オリンピック史上でも初の取り組みだと言われております。ぜひ皆様方にもご協力をお願いしたいと存じます。

さらに、オリンピック・パラリンピックで必要となる食材、木材等は、持続可能な調達コードを遵守したものが調達されることになっております。現在、被災地である福島県や岩手県といった所で、Good Agricultural Practice、GAP認証を取得した農産物を生産し、是非東京大会に参加する選手に食べてもらいたいと頑張っております。

また、被災した3県におきましては、私どもが従来から進めてまいりましたホストタウンの取り組みに加えて「復興『ありがとう』ホストタウン」を始めました。当時支援してくれた国の方々と住民との交流を行い、感謝の気持ちを示すとともに、復興がここまで進んだという姿を見てもらいたいと考えております。

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を通じて、日本が少しずつ持続可能性に配慮した社会になっていくということが次の世代にとっても有益となります。最後にGEA国際会議における議論の成果が持続可能な社会を実現する上で重要な役割を果たされることを祈念申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。